知求会ニュース

2019年4月　　第69号

◎　博士後期課程 博士号取得、おめでとうございます！

陳佳敏(国際学研究専攻・8 期生)さん・長田元(国際学研究専攻・9 期生)さん・鄭安君(国際学研究専攻・10期生)さんが、2019年3月22日(金曜日)に昨年授与されたTHAN THI MY BINHさんに続いて第22号～第24号の博士号学位を授与されました。なお、論文要旨などは本号の「博士録46・47」と次号「博士録48」に掲載されますので、併せてご一読下さい。

これまでの国際学部・国際学研究科(修士課程および博士前期課程)出身者の学位取得者は、博士(国際文化)（東北大学）2名・博士(文学)（名古屋大学）/（筑波大学）/(東北大学)3名・博士(人文科学)（お茶の水女子大学）1名・博士(人文学)（パリ東大学）1名・博士(芸術学)（筑波大学）1名・博士(社会学)(一橋大学)1名・博士(農学)（東京農工大学連合大学院）2名・博士(国際学)(宇都宮大学)14名・博士(経済学)(名古屋市立大学)1名・博士(観光経営学)(慶熙大学校)1名・博士(人間・環境学)(京都大学)1名・博士(学術)(杏林大学)/(筑波大学)/(東京大学)/(一橋大学)4名・博士(国際開発学)（名古屋大学）1名・博士(国際関係・紛争・平和学)(キングス・カレッジ・ロンドン)1名の計34名です。

◎　博士前期課程、修了おめでとうございます！

2019（平成31）年3月22日(金曜日)午後1時10分から5号館A棟4階大会議室にて、2018年度学位記授与式が開催されました。

今回の修了者は、国際社会研究専攻の第19期生の**王志博**さん・**香梅**さん・**陳昊**さん・**劉欣**さんの4名でした。国際文化研究専攻の第18期生の**東克哉**さん、第19期生の**江口堯博**さん・**王春宇**さん・**高天戈**さん・**趙煒**さん・**唐安琪**さん・**トン ヌータン トウ**さんの7名でした。国際交流研究専攻の第18期生の**川島賢**さん・**仙波美弥子**さん、第19期生の**于遠**さん・**大橋秀一**さん・**孔媛媛**さん・**石文君**さん・**タマン ラズ クマリ**さん・**張盼盼**さん・**鄭欣**さん・**白夢然**さん・**ビュー ティ ミン グェット**さんの11名でした。計22名でした。

◎　受賞おめでとうございます！

国際学部客員准教授の若林秀樹先生が、総務省など主催の「他言語音声翻訳試作品（PoC）コンテスト」において、優秀賞の総務大臣賞を受賞されました。こころから受賞おめでとうございます。早期の実用化が期待されます。(https://tagen.go.jp/report/report_02.html)なお、併せて掲載記事紹介の2～4をご参考に関連記事もご一読ください。

◎　教職員人事異動

アンドリュー　ライマン准教授

アンドリュー ライマン先生が、3 月 31 日をもって退職され、青山学院大学文学部へ転出されました。宇都宮大学には 2003 年 10 月から 15 年半在籍され、多くの方が先生にお世話になったことと思います。新天地での、益々のご活躍を祈念しています。

田口卓臣准教授

田口卓臣先生が、3 月 31 日をもって退職され、中央大学文学部へ転出されました。宇都宮大学には 2008 年 4 月から 11 年間在籍され、多くの方が先生にお世話になったことと思います。新天地での、益々のご活躍を祈念しています。

◎訃報

博士後期課程第 4 期修了生の金英花さん（享年 46 歳）が 2019(平成 31)年 2 月 28 日にご逝去されました。ここに謹んでお悔やみ申し上げます。

◎　平成 30 年度 第 2 回 各学部等同窓会連絡協議会報告

2019（平成 31）年 3 月 7 日(木)午後 4 時から、宇都宮大学 UU プラザ 2 階「コミュニティフロア」にて、平成 30 年度第 2 回 各学部等同窓会連絡協議会が開催されました。出席者は藤井佐知子理事・茅野甚治郎理事・池田宰理事・佐藤規朗理事・佐々木一隆 国際学長・伊東明彦 教育学部長・阿山みよし工学研究科長・夏秋知英 農学部長の大学側 8 と事務局担当者 3 名、吉葉恭行 国際学部同窓会会長・志村なぎさ 同副会長・土屋伸夫 国際学研究科同窓会会長・増渕茂泰 教育学部同窓会会長・小林哲夫 同副会長・竹井誠 同副会長・清水由行 工学部同窓会会長・上澤和彦 同副会長・松澤康男 農学部峰ヶ丘同窓会会長・山口幸志 同副会長・田坂聡明 同理事長の同窓会側 11 名でした。議事内容は、協議事項として、１．宇都宮大学同窓会連絡協議会申合せ（案）について、２．その他。各学部等同窓会からの活動報告・要望等として、１．各学部等同窓会の活動報告等について、２．大学に対する要望等について、３．その他、そして大学の現状報告等がなされました。

◎　掲載記事紹介

１．下野新聞 朝刊（平成 31 年 2 月 15 日発行）2 面に、「改正入管法の理解を深める」と題して、「宇大でシンポジウム」の内容で多文化公共圏センターの記事が掲載されました。

２．朝日新聞 DIGITAL（平成 31 年 2 月 2 日発行）および朝日新聞 朝刊（平成 31 年 2 月 2 日発行）13 面に、「私の視点」コーナーで「教育現場の外国人支援翻訳ツールが生む安心感」と題して、若林秀樹先生の記事が掲載されました。

３．下野新聞 朝刊（平成 31 年 3 月 7 日発行）5 面に、「東京発」コーナーにおいて、「学校連絡帳を他言語で」の内容で若林秀樹先生の記事が掲載されました。

4．毎日新聞 朝刊（平成 31 年 3 月 17 日発行）26 面に、「会いたい 聞かせて」コーナーにおいて、「言葉の壁取り払う」の内容で若林秀樹先生の記事が掲載されました。

5．下野新聞 朝刊（平成 30 年 10 月 17 日発行）4 面に、「日曜論壇」コーナーにおいて、「21 日から新執筆陣」の内容で田巻松雄先生の記事が掲載されました。

6．下野新聞 朝刊（平成 30 年 10 月 21 日発行）4 面に、「日曜論壇」コーナーにおいて、「多文化共生の複眼的視点」の内容で田巻松雄先生の記事が掲載されました。

7．下野新聞 朝刊（平成 30 年 11 月 25 日発行）4 面に、「日曜論壇」コーナーにおいて、「誰にも学び直しの機会を」の内容で田巻松雄先生の記事が掲載されました。

8．下野新聞 朝刊（平成 31 年 1 月 6 日発行）4 面に、「日曜論壇」コーナーにおいて、「野宿者支える空間に目を」の内容で田巻松雄先生の記事が掲載されました。

9．下野新聞 朝刊（平成 31 年 2 月 10 日発行）4 面に、「日曜論壇」コーナーにおいて、「多文化共生 対話で実現を」の内容で田巻松雄先生の記事が掲載されました。

10. 下野新聞 朝刊（平成 31 年 3 月 17 日発行）4 面に、「日曜論壇」コーナーにおいて、「公立夜間中の設置促進を」の内容で田巻松雄先生の記事が掲載されました。

11. 下野新聞 朝刊（平成 31 年 3 月 21 日発行）21 面に、「寄稿　グリム童話収録 200 年　「ブレーメンの町の楽士たち」」の表題で、「連帯と絆、物語から学ぶ」の内容で橋本孝先生の記事が掲載されました。

◎　国際学部だより

1．月刊福祉 11 月号（平成 30 年 11 月 1 発行）94-95 頁に、「第 43 回　各国からの風」コーナーで「子どもの権利を奪う児童労働の撤廃に向けて」の標題で特定非営利活動法人 ACE（エース）事務局次長成田由香子さん（国際学部国際社会学科 2 期生）の記事が掲載されました。

2．月刊福祉 12 月号（平成 30 年 12 月 1 発行）94-95 頁に、「第 44 回　各国からの風」コーナーで「インド・コットン生産地で児童労働をなくし住民の自立を支援する」の標題で特定非営利活動法人 ACE（エース）事務局次長成田由香子さん（国際学部国際社会学科 2 期生）の記事が掲載されました。

3．月刊福祉 1 月号（平成 31 年 1 月 1 発行）94-95 頁に、「第 45 回　各国からの風」コーナーで「ガーナ・カカオ生産地で住民とともに「児童労働のない村」をつくる」の標題で特定非営利活動法人 ACE（エース）事務局次長成田由香子さん（国際学部国際社会学科 2 期生）の記事が掲載されました。

4．月刊福祉 2 月号（平成 31 年 2 月 1 発行）94-95 頁に、「第 46 回　各国からの風」コーナーで「ソーシャルビジネスで生産者とつながり、倫理的なビジネスと消費をひろげる」の標題で特定非営利活動法人 ACE（エース）事務局次長成田由香子さん（国際学部国際社会学科 2 期生）の記事が掲載されました。

５．月刊福祉３月号（平成 31 年３月１発行）94-95 頁に、「第 47 回　各国からの風」コーナーで「日本にもある児童労働」の標題で特定非営利活動法人 ACE（エース）事務局次長成田由香子さん（国際学部国際社会学科２期生）の記事が掲載されました。

６．下野新聞 朝刊（平成 31 年２月 10 日発行）19 面に、「まちなか便り」コーナーで宇都宮でできる国際協力「フェアトレード商品販売　17 日に「せかいカフェ」」と題して、宇都宮大サークル KAKEHASEEDs（カケハシーズ）の記事が掲載されました。

◎ 放送大学栃木学習センター面接授業

１．源氏物語をよむ　2019年5月11日（土）・12日（日）1時限～4時限
高山道代先生（国際学部准教授）

２．英国近代小説の設立課程をたどる　2019年6月01日（土）・02日（日）1時限～4時限
高際澄雄先生（国際学部名誉教授）

３．比較文学への誘い　2019年8月03日（土）・04日（日）1時限～4時限
丁貴連先生（国際学部教授）

○　論文案内

１．田巻松雄先生著「外国人児童生徒から「不法滞在者」へ―日系人 M の 20 年の軌跡―」（6-16 頁）が、社会運動論研究会『エモーション・スタディーズ』第４巻特別号（2019 年）に掲載されました。

○　第６回重田ゼミ研究会開催案内

日時：2019 年４月 21 日（日）13：30～16：00

場所：宇都宮大学 UU プラザ

報告会内容：

①　重田康博先生「バングラディシュ現地報告」

②　小林ひとみ「ソーシャルキャピタル（社会関係資本）と復興プロセスの相関性
―防災・減災日本 CSO ネットワーク（JCC-FRR）による現地調査の研究成果と提言―」

③　Raj Kumari Tamang “The Problem and the Need of Street Children of Kathmandu Valley, Nepal -Role of Family for Child Right Protection-”

④　于遠「中国農村の「留守児童」における NGO の役割と課題についての考察
―草の根 NGO「森の天使」による「留守児童」への支援活動を事例に―」

重田ゼミ生以外でも聴講可能ですので、多くの同窓生の参加をお待ちしています。

特別寄稿

本年 4 月より開設された新研究科について、佐々木一隆先生に寄稿をお願いしました。

宇都宮大学大学院地域創生科学研究科修士課程の開設：国際学研究科からの継承に焦点をあてて

国際学研究科長　**佐々木一隆**

地域創生科学研究科の概要

宇都宮大学では 2019 年 4 月に、新たな大学院地域創生科学研究科（修士課程）が開設されました。この新研究科は、従来の国際学研究科、教育学研究科、工学研究科、農学研究科の博士前期課程ないし修士課程をベースに、3 年前に設置された地域デザイン科学部の教育研究分野も組み入れて設置されたものです。地域デザイン科学、国際学、教育学、農学が連携・融合した「社会デザイン科学専攻」（定員 77 名）と工学、農学が連携・融合した「工農総合科学専攻」（定員 258 名）の 2 専攻からなり、総定員は 335 名となります。このため、既存の研究科博士前期課程および修士課程は学生募集を停止しました。なお、教育学研究科の専門職学位課程（教職大学院）は定員を 18 名として募集を継続します。

理念と育成する人材像

地域創生科学研究科の理念は、21 世紀の課題を解決して持続可能な豊かな地域社会の創生に貢献するために、高度な課題解決能力を備えた人材を育成するとともに、特徴的で強みのある研究を推進することにあります。具体的にはこうした理念のもと、文理融合・分野融合を推進する 2 専攻体制で社会デザインとイノベーションの創造に関する専門知識・技術を身につけ、学際的な幅広い思考力と実践力を備えて主体的に行動できる高度専門職業人を育成します。

教育課程の基本構成：専攻と学位プログラム、倫理観の養成、履修・研究指導等

上述の 2 専攻にはどちらも８つの学位プログラムが用意されています。まず、社会デザイン科学専攻における各プログラムの名称と授与される学位は以下のとおりです。

A. 社会デザイン科学専攻

- コミュニティデザイン学プログラム [修士(学術)]
- 農業・農村経済学プログラム [修士(農学)]
- 建築学プログラム [修士(工学)]
- 土木工学プログラム [修士(工学)]
- 農業土木学プログラム [修士(農学)]
- グローバル・エリアスタディーズプログラム [修士(国際学)]
- 多文化共生学プログラム [修士(学術)]

・地域人間発達支援学プログラム [修士(学術)]

これら社会デザイン科学専攻 8 プログラムのうち、グローバル・エリアスタディーズと多文化共生学の２つのプログラムが、国際学研究科博士前期課程の 3 専攻（国際社会、国際文化、国際交流の各研究専攻）の教育研究分野を基本的に継承します。次に、工農総合科学専攻における各プログラムの名称と授与される学位は以下のとおりです。

B. 工農総合科学専攻

・光工学プログラム [修士(光工学)]
・分子農学プログラム [修士(分子農学)]
・物質環境化学プログラム [修士(工学)]
・農芸化学プログラム [修士(農学)]
・機械知能工学プログラム [修士(工学)]
・情報電気電子システム工学プログラム [修士(工学)]
・農業生産環境保全学プログラム [修士(農学)]
・森林生産保全学プログラム [修士(農学)]

以上に示した各学位プログラムは、地域創生リテラシー（10 単位）と専門科目（20 単位）の計 30 単位で構成されます。地域創生リテラシーは、地域創生のための高度な科学リテラシーとして、学際的思考力と実践力を養成することを目標とします。学際的思考力を養う科目には「地域創生のための社会デザイン＆イノベーション」「現代社会を見通す：生命と感性の科学」「グローカルな視座を養う」「アカデミックコミュニケーション」や文系の学生向けの理系科目群があり、実践力を養う科目としては Globalization and Society、「実践インターンシップ」「国際インターンシップ」「臨地研究」などが挙げられます。

専門科目は、「特別演習」（4 単位）、「特別研究」（6 単位）を含む 20 単位の履修が必要となります。「特別研究」には倫理観の養成が必須事項となっています。グローバル・エリアスタディーズプログラムでは、国際協力、経済学、グローバル教育、社会学、歴史学、情報科学、市民社会、アフリカ、中東、環境問題、国際関係、国際機構、防災、国際人権などに関する専門科目が開講されます。多文化共生学プログラムでは、文化人類学、社会学、言語学、日本文学、歴史学、比較文学、外国語教育、心理学、英語学、社会福祉学、比較文化、英文学、米文学、教育社会学、作曲・音楽学、日本語教育、教育学、学校教育、日本語学、芸術学、哲学、ロシア文学・文化、イギリス文化、法学などに関する専門科目が開講されます。

研究指導については、主指導教員１名と副指導教員２名からなる３名の指導体制をとり、第 1 副指導教員は学生の所属と同じ学位プログラムから選出し、第 2 副指導教員は異なるプログラムの教員がなります。修士論文の審査については、入学時から論文審査に至る日程と評価視点を統一化しています。基本的に、研究計画の作成と提出、中間発表会、最終発表会と最終審査の日程や評価視点・項目に関して全学的に調整を行います。そして、修士論文の審査委員は、上述の３指導教員の他に同じ専門分野の教員（委員長）を加えた４

名で構成し、その審査は学位プログラムで審議され、その結果は各専攻教授会の議を経て研究科代議員会で最終決定されます。

地域創生科学研究科設置の背景

今回の一大研究科設置に至った主な理由は、一言でいえば、教教分離の実質化にあります。教教分離とは、「教育」組織としての学部や研究科などと「教員」組織を分けることをさします。2018 年 1 月に教員組織は宇都宮大学学術院に一元化されて、各学部等に所属していた教員はすべて学術院に所属することになりました。各教員はこの学術院に所属しながら、特定の学部・学科や新研究科の特定のプログラムの責任教員となって教育活動を行います。特に、新研究科では従来の研究科所属の教員がその壁を越えて同一の教育プログラムに従事できる自由度があることが特徴的で、教教分離の実質的効果はこうしたところに見られます。新研究科では、例えばグローバル・エリアスタディーズプログラムの構成員は国際学部責任教員の一部と留学生・国際交流センター責任教員であり、多文化共生学プログラムは国際学部責任教員と教育学部責任教員それぞれの一部から構成されています。この関係で、多文化共生学プログラムでは国際学部と教育学部の責任教員が協働して同プログラムの講義や研究指導を行うことができ、これまでにない研究指導の幅が生まれています。

国際学研究科博士課程

新研究科では博士課程の設置も計画されていますが、実現するまでは国際学研究科博士課程の募集を継続します。この 4 月には国際学研究科博士課程に新たに３名の学生が入学し、従来どおりの教育研究活動が始まりました。

おわりに

前研究科長の田巻先生の時に、新研究科の構想・検討が始まり、「国際学専攻」や「国際学コース」などと「国際学」の名称を残すよう全学に働きかけましたが、残念ながら実現できませんでした。しかし、学位には「修士（国際学)」が維持され、新たに「修士（学術)」
も加わりました。こうした中、今回の入試では当該２プログラムを合わせて 34 名の合格者を出し、研究科全体でも 335 名の総定員を確保しました。プログラム長には、磯谷先生(グローバル・エリアスタディーズ）と田巻先生（多文化共生学）が就任することになり、組織運営の面でも新研究科は順調に開始したと言えます。

（2019 年 3 月 25 日原稿受理）

研究室訪問 50 第 9 号から国際学研究科に関係する内外の先生方に寄稿をお願いしたコーナーを設けました。

博士録 46 第 22 号から今後の博士誕生を鑑み、新コーナーを設けました。

「博士論文の完成に当たって」

国際学研究科 博士後期課程
長田 元（ながた げん）

2015 年に入学して以降、長期履修制度を活用しながら磯谷先生のご指導のもと、港湾振興の研究を行っておりました。博士論文完成にあたり、皆様のお役に立てればと思い、博士論文の概要、完成まで苦労した点、参考になればいい点をまとめてみました。

1. 博士論文の概要

博士論文は、『地方港湾の振興の意義と課題―地域の国際化の視点からみる金沢港の取組みを中心として―』を題に金沢港の港湾振興策を考察しました。研究の背景として、港湾を考えることは地域経済の課題の検討につながるが、港湾を地域経済、地域構想等の視点から分析したものは少ないと捉えていたからです。

論文は序章から始まり第１章から第６章を経て終章で構成しました。第１章から第２章では、日本の海上輸送貨物を京浜港・阪神港に集約しようとする政策を整理しつつ、その主たる集貨策が北陸地方の陸上輸送に関するものにとどまっていること、その集約策もトラックドライバーの不足により事業効果を最大化できるか分析を行う必要性を示すとともに、北陸地方を中心とする日本海側の港湾における振興策の必要性を示しました。

以降は論文の中核となり、第３章では、北陸地方の港湾政策や地域経済の特性を踏まえながら港湾を物流機能以外の地域間交流や経済交流の役割を付加できるか考察を行いました。考察の結果、北陸地方の港湾政策は、内航海運による貨物の集約、産業の創出、連携促進といった航路に関するものや社会全体の課題への対応であることを明らかにました。とりわけ金沢港で行われている積み合い輸送は、港に企業間の連携や企業と行政機関を結び付ける役割を付加していることを明らかにしました。

第４章では、石川県の経済の特性を踏まえつつ、３章で取り上げた積み合い輸送の課題である出荷情報の共有をどのような行為体が中心となり得るか考察しました。具体的には、石川県内の商工会議所・商工会連合会にアンケート調査を行い、多くの商工会議所・商工会が企業の支援につながると考えていることを明らかにし、積み合い輸送は、企業と企業をつなぎ地元企業と共生していく港として役割を担うことができることを論じました。

第５章では、地域社会が北陸地方の港湾をどのように捉えているか地方紙の社説を分析し、社説論評には港湾振興を通して自己を再認識し地域振興を提唱する視点が認められ、港には地域の自己を再認識させ地域振興を促す力があることを明らかにしました。

第６章では、港湾振興と本論第３章から第５章において考察した地域の国際化に向けた企業の取組み及び地域意識の表れを地域の国際化の視点から考察し、港湾と港湾の交流を

通した経済や文化交流の深化に結び付けていくことを提唱しました。

終章では本論文の総括を行い、金沢港では港に進出した企業が関連企業と共に競争力を向上させる役割を担い、地域の企業と協力し、地方自治体をはじめとする様々な行為体を結び付けた取組みが認められた点をまとめました。地方の港湾を振興する意義と課題を総括し、これらを考察することは重要であると結論付けました。

2. 国際学研究科で研究を続ける皆様へ

まずは、スケジュール管理を徹底する。いつまでに修了要件を満たし、博士論文を執筆する必要があるのか、スケジュールを意識しながら研究を進めてください。ご所属の学会が発行する学会誌の発行/投稿頻度は多くても年数回だと思います。磯谷先生からは「長期履修制度に甘えることなく３年で修了すること」と指導を賜りました（４年かかりましたが…）。

論文をよく読む。他者の論文や博士論文をより多く読むのがいいと思います。自身がこれから執筆する論文に様々な示唆を与えてくれると思います。ご自身の研究テーマと関係がない論文であっても、問題設定や研究手法は参考になると思います。

所属学会を最大限活用する。有益なコメントが得られれば自身の研究をより良いものにできます。また、(宇都宮大学の院生に限らず)自身の発表が終わったらそのまま会場を去る院生がいますが、時間が許す限り他の発表を聴いてコメントしてみてください。よい刺激になると思います。

書きたくても書けないときは？私自身、全く書けない時期がありました。「書けない原因は何か？」自分なりに突き詰めて考えてみましたが、そもそも論文を書く前提となる「事実の確認が十分でなかった」ことが大きな要因でした(と自分では感じている)。書けない時は確認した事実をまとめるだけでもいいので文章にして「何がわかっていて、何がわかっていないのか」把握してみてはどうでしょうか。文章にすれば加筆・修正も行いやすいです。

指導教員のいい点、優れた点を吸収する。先生は研究者としても人としても大先輩です。未来を見通し、状況を俯瞰する能力は先生の方が圧倒的に高いです。なお、指導教員と自身の考えが異なるときは明確な瑕疵がない限り先生の方針に従うことをお勧めします。その時は「本当にそうか？」と思うことはあっても、忘れた頃に問題として顕在化するでしょう。

最後に、研究を楽しんでください。現在、苦労している方は「そんな余裕はない」と感じると思いますが、修了要件を満たすと余裕が生まれます。私は「修了すること」を最優先に上記のことを実践しながらも、「論文を公表して社会をより良くすることに貢献したい」との思いから、３本の論文を学会誌に掲載することができました。はじめは苦労しましたが、楽しみも感じながら研究できたからこそ、様々な研究課題に前向きに取組むことができ、修了にもつながったと考えております。この原稿が少しでもお役に立てれば幸い

です。

修了にあたり、修学支援課、国際学部総務係の皆様、松村先生、佐々木先生、審査委員を引き受けて頂きました重田先生、阪本先生をはじめ研究科の先生方、何より磯谷先生から多大なご支援、ご指導を賜りました。改めて御礼申し上げます。宇都宮大学の益々の発展、皆様のご健勝を祈念するとともに、今後ともよろしくお願いいたします。

（国際学部 国際社会学科 第 5 期生 / 国際学研究科 国際学研究専攻 第 9 期生）

（2019 年 3 月 14 日原稿受理）

博士録 47

中島敦とその時代

― 人間認識の場としての植民地（朝鮮、中国・満州、南洋）―

陳 佳敏

１．博士論文の要旨

本研究は、中島敦の植民地体験に注目し、その体験が「山月記」（1942）や「弟子」（1942）、「李陵」（1942）など中国の古典に取材した晩年の作品の人物造形に与えた影響とその背景に迫ったものである。

中島敦が生きていた時代は日清・日露両戦争を経て国際的な地位を高めた日本が、朝鮮や台湾など周辺諸国を植民地支配し、さらなる植民地確保のためにアジア諸国と戦争を行っていた、いわゆる戦争の時代である。少年時代から晩年にかけて人生の三分の二を日本が支配していた、あるいは日本の一部であった朝鮮と中国・満州と南洋群島に暮らす機会に恵まれていた中島敦は、文学を志した高校生の時から植民地という異質な空間に生きる人間の存在に強い関心を示し、それらを次々と作品化していった。その作品世界は、植民地体験を概念的かつ表面的に捉えた同時代の他の植民地ものと違い、国籍や人種、民族、階級、性別、年齢、社会的地位などを問わず植民地に生きる様々な人物たちの表象を通して、「人間」とは何かを問うている。しかも、その問いは＜朝鮮もの＞から＜中国もの＞、そして＜南洋もの＞へと書き進むにつれて深まっていくのであった。

そこで本論文では、京城や大連、パラオといった植民地を舞台にした中島敦の作品を、同時代の他の＜植民地もの＞と比較考察し、中島敦にとっての植民地はいかなるものなのか、またそれが晩年の＜中国古典もの＞にどのような影響を与えたのかを浮き彫りにすることを目的とした。そのため、本論文は、序章「中島敦とその時代、そして植民地体験」、第Ⅰ部「植民地に生きる様々な群像―少年時代の朝鮮体験」、第Ⅱ部「中国憧憬と冒険を求める日本人達―青年時代の中国・満州体験」、第Ⅲ部「島民イメージを覆っす南洋人―晩年の南洋体験」、そして終章「植民地体験と中国古典もの、そしてその関連性」という構造をとり、テキスト分析に徹するという方法論をとった。

本研究は、これまで地域ごとの体験を中心に行われがちであった中島敦の植民地体験をトータルに捉え直すことによって、中島敦にとって植民地は時代を批判する目を養った場にとどまらず、人間認識の場であった視点を提示した。特に、習作や未定稿の故に発表当初からまともに評価されてこなかった＜朝鮮もの＞が、＜中国もの＞から＜南洋もの＞へ、さらには＜中国古典もの＞の人物造形に受け継がれていたことを浮き彫りにすることによって、朝鮮こそ作家中島敦を成立せしめた原体験に他ならない事実を明らかにした。

２．後輩への助言

博士論文は、論文のタイトルから、論旨の組み立て、日本語修正などに至るまで、丁貴連先生の入念なご指導、また副指導先生方、同研究室の仲間からの多大な協力がなくては、論文の完成は全く不可能であり、後輩にアドバイスするのが大変恐縮です。また、私の場合は博士課程を 2 年もオーバーしてやっと修了したので、自分の経験が本当に参考になるかとかなり迷いました。しかし、自分が在学中に指導先生や先輩たちの経験談や助言を聞いて勇気づけられたので、自分の経験が皆さんに少しでも役に立てばよいと思い、書かせていただきました。

この 5 年間を振り返ってみると、様々な状況があって大変でした。1 年目には家庭を作り妊娠し、一人目の子供を産みました。その後、家事や育児のことに追われた日々でしたが、頑張って論文を投稿したり、学会発表をしたりして本気で研究に向かう姿勢を整えるようになりましたが、3 年目には査読論文がなかなか決まらず何度も投稿して精神的に限界になっている時がありました。4 年目にやっと査読論文の採択が決定されましたが、精神的な焦燥や疲れで体調を崩し、研究が長い間全く進まない状態になりました。その後、体調が回復し、最終的な挑戦に乗ろうとしたときに、妊娠したことがわかりました。5 年目は妊娠や出産などの事情もあったので、ハードなスケジュールで進行しました。このような 5 年間でしたが、正直博士課程を諦めようと思った時は何度もありました。

しかし、それでも諦めず、研究の場から離れなかったことがなにより幸いでした。諦めようとしても出産するまでに毎週学校に来て、論文の指導を受けることにし、雑事に追われても利用できる時間はすべて論文執筆に使いました。そして、精神的に限界になり、辛い日々が続き、これ以上は無理だと思った時に、もう少し頑張ろうと自己説得しました。諦めずに挑戦した結果、論文を完成することができました。この 5 年間を振り返って分かったことは、どのような状況に置かれても、諦めない限り必ず乗り越える方法はあるはずということです。諦めなければ、失敗はありません。皆さんも諦めずに自分の限界に挑戦し、良い論文を書き上げることを応援しています。

以上が私の経験と感想です。この 5 年間、国際学研究科で研究生活を送ることができて本当に良かったと思います。今後ともよろしくお願い致します。

（国際学研究科 国際文化研究専攻 第 14 期生 / 国際学研究科 国際学研究専攻 第 8 期生）
（2019 年 3 月 19 日原稿受理）

知究人 35　第 9 号から特に、国際学部出身者で他大学院へ進学された方に、寄稿をお願いしたコーナー(ちきゅうびと)を設けました。

海外だより 28　第 27 号から国際学研究科、国際学部出身の海外在住者からの寄稿をお願いしたコーナーを設けました。

海外留学今昔 26　第 35 号から国際学部出身者および在学者を中心とした海外留学体験の寄稿をお願いしたコーナーを設けました。自薦・他薦を問いませんので、**海外留学経験者および海外留学中の在学者の積極的な情報提供**を事務局にお寄せ下さい。

「香港留学体験記」

佐々木斐菜乃

「香港」と聞くと、「中国の一部」、「文化などをよく知らない」といったイメージをよく耳にします。実際、私も留学する前までは、香港という国についてほとんど知りませんでした。しかし、私は留学を通して、香港がもつたくさんの魅力を知ることができ、素晴らしい経験をすることができました。今回は、そんな私の留学体験を述べたいと思います。

私が香港という国で暮らして得た印象は、「様々な要素が凝縮されている場所」です。香港は、高層ビルが立ち並び、ラグジュアリーブランドが並ぶ場所と、それとは対照的に、手つかずの自然が残り、美しい景色を楽しませてくれる場所、また、歴史的な情緒を感じられる遺産など、様々な面を持っています。また、道を歩けば、様々な外国語が聞こえてきますし、目に入る看板も、英語、広東語、中国語など様々です。食の世界も多様で、中国的なヤムチャや、イギリス式のアフターヌーンティーなど、多国籍な料理を楽しめる空間は、味覚を飽きさせません。このように香港は、独自の文化を持ち、新旧が混在し、多文化が五感で感じられるような場所で、毎日がたくさんの刺激にあふれ、その違った表情で私たちを楽しませてくれる場所なのです。

このような国に存在する香港大学は、アジアの中でも高いレベルに位置する大学で、勉学に集中する設備が充実しており、授業もユーモアに溢れていて、退屈を知らない毎日を送ることができました。自分の興味のある分野をそのような環境で学ぶことができたことを、とても嬉しく思います。そして、そこで出会った個性豊かな友人も、私の留学を語る上では欠かせません。私が暮らしていたのは狭いアパートで、私を入れて 6 人で暮らしていました。出身も国籍も年齢もバラバラな私たちでしたが、毎日の生活を共にし、誕生日や記念日をお祝いしていく中で、文字通り「家族」のような関係になることができました。楽しいときも、悲しいときも、それを分かち合うことができる友人に出会えたことは、私の留学においてとても価値のあることだと思います。

私の留学は、香港という魅力的な国、そして素晴らしい友人のおかげで、自分自身の人

生においてとても重要なものになったと思います。このような機会を頂いたことに感謝し、今回の留学で得た経験を、今後の人生で活かしていきたいと思います。

（国際学部　国際文化学科　第４年次在校生）

（2018 年 11 月 21 日原稿受理）

「中国留学体験記」

中澤 咲

私は 2017 年 9 月から 2018 年 7 月までの 10 か月間、中国の浙江省杭州市にある浙江大学に留学に行っていました。中国を留学先に選んだ主な理由は中国語の習得のためと、一度中国に行ってみたかったからです。それは日本と隣国でありながら政治体制も違う、外交的にも様々な事柄が間にある日本からある意味近いようで遠い、遠いようで近い中国というものに興味があったためです。

私が留学していた浙江大学は徒歩 10 分内に世界遺産の湖があり、周辺は大きな百貨店や土産屋街が連なっており、週末にはいつも人であふれ返っている、というようなとても賑やかでいろいろな地域から人が集まっているような場所でした。そんな中私は留学の上半期は語学を伸ばすことと人脈を作ることに専念しておりましたので、様々なサークルや集まりに参加していました。それ以外にも中国では道行く人とも世間話をすることもよくあることでしたのでそういった時にも積極的に会話をするように心がけていました。興味深かったのはそういった知り合った人たちとの会話の内容が、政治や社会問題のことでほとんどを占めることです。中国人の友人によると中国人、特に中高年の人たちは社会問題や政治のことに関心が高く日常の会話の中でもそういった話題がよく挙がるそうです。私が日本人であるので自然と会話も日本のことが話題になることが多かったのですが、やはり私が交流を持った人たちも時事的な日本の経済や政治のことをある程度知っており、それぞれ自分の意見を持っている人がほとんどでした。そこは実際に中国で暮らしてみないと知りえないことで、日本では味わえない経験でした。その中で特に印象的だったのが私が日本人とわかるや、日本のことが嫌いだと言ってきた若い人と話したことです。そこで自分でも驚いたのが、その後その人と日本の社会や歴史のことで話がかなり盛り上がったことです。私が中国語でうまく話せない時も言葉が出るまで待ってしっかりと意見を聞いてくれたり、日本のこういうところが評価できないなど、理由も詳しく私に伝え対等に議論をしようとしてくれました。おそらく私が日本人以外の外国人であったらこのような話は出来なかったと思われます。この時は日本人として中国に留学していることの面白さを強く感じました。

それと別に特に印象深いものがインターンシップの経験でした。私は留学の後半は学校に通いながら浙江省のある企業でインターンシップをさせていただいていました。その企業は浙江省や安徽省内の高速道路の建設・管理、サービスエリアのデザインなどを手掛けているところでした。そこで私は日本の高速道路の業務に関係する企業のパンフレットを

中国語に訳したり、日本のサービスエリアでの販売物や施設の様相などをプレゼンし、企画などを提案したりしました。そこで驚いたことが、その企業の方々はインターン生でしかも中国語も十分とは言えない外国人の私の意見をどんどん自分たちの企画に盛り込んで反映して頂いたことです。日本に帰ってから日本の企業のインターンシップもいくつか経験いたしましたが、やはり学生と企業という線引きははっきりしていて自分の意見が企業の意見として反映されるというようなことはありませんでした。というよりもそれが普通のことだと私自身思っていました。ですのであの中国の企業で味わった、仕事に加わっている、任されているという臨場感と責任感、事業や物事が動くスピード感はあの場でしか経験できなかった貴重な機会でした。

今回の留学では上記以外にもまだまだ沢山の貴重な経験をいたしました。当初の目的である中国語の習得はもちろん、臆せず積極的に人間関係を広げていくスキルや、一つ一つの出会いを手放さない重要さに気付くことができ、人間として一回り成長できたと感じております。この 10 か月間は様々な出会いがあり、多くの方々に協力をしていただき色々な経験をさせて頂きました。最後に、今回の交換留学を支えてくださった関係者の皆様、友人、留学を快諾してくれた家族、浙江大学の関係者の皆様、中国で出会った皆様に心から感謝いたします。皆様のおかげで今の私があります。本当にありがとうございました。

（国際学部 国際文化学科 第 4 年次在校生）

（2019 年 1 月 20 日原稿受理）

学生サロン 16　知求会ニュース第 41 号より現役学部生によるコーナーを設けました。自薦・他薦を問いませんので、**現役学部生の積極的な情報提供**を事務局にお寄せ下さい。

キャリア指南 13　現役学部生に向けた企画として、宇都宮大学全学部から国際機関をはじめ、NGO・NPO や企業などで活躍する先輩方に執筆していただくコーナーを設けました。自薦・他薦を問いませんので、**キャリア指南にふさわしい卒業生の積極的な情報提供**を事務局にお寄せ下さい。

フォーラム　2019 年の卯月を迎えて、皆様慌しいことと思います。（原稿集めに苦労しています。）

国際学部学位授与式から

国際学部

・**総代** 1 名

① 鳥居美波「「過渡期の総路線」へ至る政治過程―現代中国の起点」松村研究室

2013(平成25)年度より、学位記授与式において卒業論文を表彰する賞が設けられました。表彰者は以下の通りです。

・最優秀賞 2名

① 高見涼太「「ワシントン体制」の虚構―日本外交の国際協調主義再考（1910～1920年代）―」松村研究室

② 髙瀬 栞「「銀河鉄道の夜」から見る宮澤賢治の死生観」松井研究室

・優秀賞 4名

① 佐藤春菜「現代における生活環境病を取り巻く社会認識と課題―化学物質過敏症を事例に―」阪本研究室

② 村田龍治「世界と日本の事例にみるポピュリズムの類型と成立要因―民主主義の促進か後退か」清水奈名子研究室

③ 森下 楓「利用者にとってわかりやすい公共サインとは―宇都宮市を対象として―」田巻研究室

④ 中村有希「思想とライフスタイルから考察する北欧デザインの実態」出羽研究室

国際学研究科学位授与式から

・成績優秀学生（奨励奨学金授与）1名

① TON NU THANH TU “Ambiguity in the Japanese language for vietnamese native speakers”佐々木一隆研究室

2013(平成 25)年度より、学位記授与式において修士論文を表彰する賞が設けられました。表彰者は以下の通りです。

・優秀賞 2名

① 石 文君 “A Discursive Analysis of College English Teaching in China from Social Constructionism Perspective -A Case Study of the College English Test and College English syllabi-” 戚研究室

② 仙波 美弥子「地域の日本語教室における「ビジターセッション」の研究」 田巻研究室

●お願い―宇都宮大学３C 基金への寄付に関して

4月に大学から「宇都宮大学３C 基金」寄付への協力要請を受けています。詳細は以下のアドレスへアクセスしてください。http://www.utsunomiya-u.ac.jp/fund/3c_kikin.php
なお、海外からでも寄付ができる方法がありますので、よろしくお願いいたします。

2018(平成 30)年 4 月 1 日から 2019(平成 31)年 1 月 31 日までの寄付状況は以下の通りです。国際学部　10 件・教育学部　62 件・工学部　53 件・農学部　185 件・不明　1 件の 311 件です。このデータが示すように、国際学部同窓会・国際学研究科同窓会からの同窓生による関心が薄いように思われます。この機会に、ぜひご協力を重ねてお願いします。

お知らせ

2019 年 11 月 23 日（土）の午前中に宇都宮大学創立 70 周年記念イベントと企画展「宇都宮大学の歴史」が開催されます。午後から第 5 回宇都宮大学ホームカミングデーが各学部で開催されます。ぜひ、多くの同窓生の参集をお待ちしています。本年の手帳に予定を入れておいてください。よろしくお願いします。

東南アジア支部だより

第 63 号から、タイ在住の大畑美優紀さん（国際学部社会学科第 1 期生・国際学研究科国際社会研究専攻第 1 期期生）が発起人となり、国際学部同窓会および大学院国際学研究科同窓会の東南アジア支部としてニュースレターを創刊しました。第 7 号の主な内容は以下の通りです。1．ご挨拶　2．懇談会　3．連載コラム　No.7 タイの昨今ータイのバレンタインデーな 1 日ー大畑美優紀 / 狙えインスタ映え！？　第 3 回アジア取材雑記　沈みゆくメガロポリス　谷澤壮一郎　/　今旬のイチマイ　第三回　ともに感じる東南アジア　週末の朝 ジャカルタの公園前で　知念（髙田）知佳　　東南アジア地域在住の同窓生は積極的に声を掛け合っていただくことを祈念しています。

EU 支部だより

第 38 号からイタリア在住の松原真実子さんによる知求会 EU 支部だより「Newsreel World」を発行してきました。今回の 29 号の内容は、1　イタリア　名門がロッカールーム清掃＆置き手紙「日本代表見習って」　2　サッカーW 杯での日本サポーターのゴミ拾い「マナー違反」「掃除人の仕事を奪った」ネットで議論　3　EU 支部だより　ーキャンディの包み紙ーです。配信方法は、画像が掲載されているために別便で配信します。ファイル容量が大きいことで、ニュースレターが受信できない場合にはその状況をお知らせください。

編集後記：2010 年 4 月 26 日から 知求会ニュースのバックナンバーは **国際学部同窓会 HP**（http://www.afis.jp）で見られるようになっています。

同窓会会員の皆様へのお願い：住所、勤務先および携帯電話番号、メールアドレスの変更の際は事務局へメールして下さい。chikyukai@freeml.com

---